

[シラス]

1. 経年経過

バッチ網漁業の漁獲量は、西薩海域では、1999年の5,450トンピークに減少傾向を示し、2002、2003年と1,000トンを下回り低調に推移しました。その後、2004年は3,507トンと好調となりましたが、2005年以降減少傾向を示し、2020年は1,120トンとなりました。

志布志湾海域では、2007年まで増加傾向を示しましたが、その後、1,000トン前後で増減を繰り返しながら推移し、2020年は1,228トンとなりました。

2. 2021年6～8月の漁況の経過

西薩海域では、カタクチシラス主体に8トンの水揚げで、平年の7%でした（前年は水揚げ無し）。

志布志湾海域では、カタクチシラス主体に30トンの水揚げで、前年の45%、平年の33%でした。

3. 2021年10～12月期の見通し

漁獲の主体はカタクチシラスで、来遊量は西薩海域では前年・平年を上回り、志布志湾海域では前年・平年並と考えられます。

（根拠）

漁獲の主体と来遊量は、近年の漁獲パターンから予測しました。

西薩海域及び志布志湾海域では、夏季降水量と秋漁に正の相関が見られ、これをもとにする、西薩海域では前年、平年を上回り、志布志湾海域では前年・平年並と考えられます。

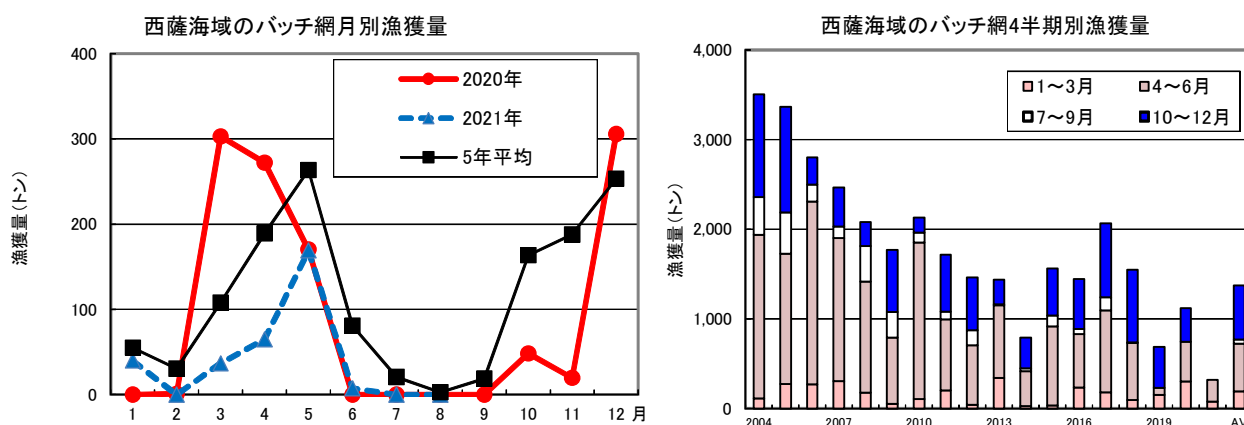


図 西薩海域バッチ網漁業の漁獲量変化(4漁協計)

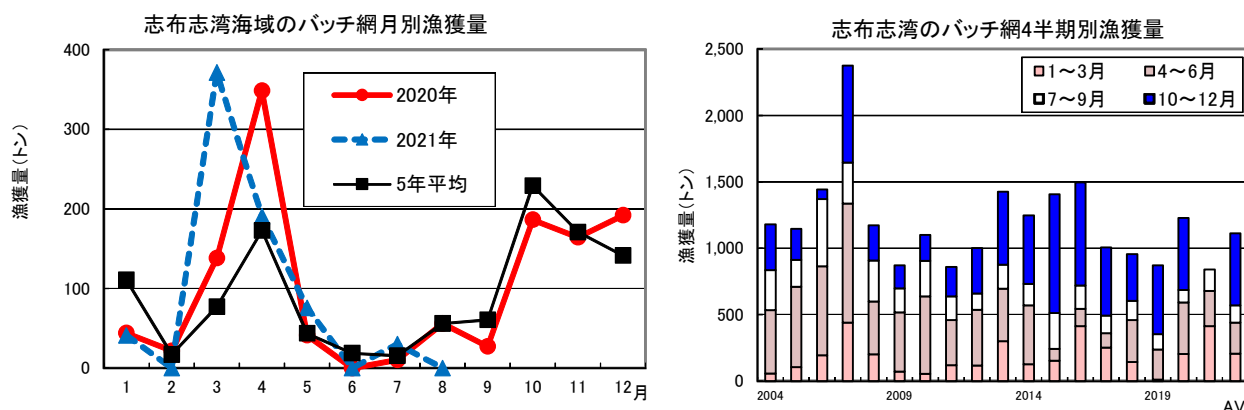


図 志布志湾海域バッチ網漁業の漁獲量変化(2漁協計)

※平年値は過去5年の平均値(AV)、2021年8月31日までの水揚量を使用